

● 「ムダ知識」か「本質」か

生来の性格なのか、人から見れば「下らない」疑問に引っかかってしまい、進めなくなることがよくあります。よくあるのが、「なんで、そんな名前にしたん？」とか「なんで、そんな動きかたなん？」（ちなみに …にしたん？ …なん？ は …にしたの？ …なの？ の音便です。）です。そう、そんなこと知らなくても仕事は進められます、モノは作れます。でも、知っているとは何か仕事ははかどりますし、出来上がるモノも違っているように思います。

● 私の例 (Ethernet と Aloha Net) [組込みとは違うかも]

Ethernet の原理が、ハワイの島々を無線（しかも同一周波数）でつなぐ「Aloha Net (アロハ ネット)」を基にしていること、その Aloha Net の原理を知ったとき、Ethernet の動作原理が理解できました。CSMA/CD (Carrier Sense Multiple Access with Collision Detection) と言われても何のことか解らなかつたのですが、Aloha Net を知ってから Ethernet の動作をイメージしやすくなりました。そして、ether (エーテル) であることの意味も解った気がしました。同一空間上に存在する複数のノードが任意のノードとの交信を制御する方法なのだと思います。簡単に言えば、3人以上で会話することを考えればよいのだと思いますが、その考えに至ったのは、Aloha Net を知ったためだと思っています。

● 「酔狂」とおっしゃらずに

「組込みシステム トリビアの泉」とどこかのテレビ番組のような（そのままですが）分科会タイトルを見て、「なんとまあ」呆れられ、「『SWEST』をなんと心得る」とお叱りの声が聞こえきそうです。しかし、番組のほうは構成の巧さもあってか、なかなか好調のようです。小学校5年の愚娘が言うには、学校では次の日は番組の話題で持ちきりだとか。ムダ知識と言いながら、堅苦しくなく知識を吸収(?)できるあたりが受けている理由かもしれません。また、その裏づけをきちんとしている辺りが、好調の理由と言う分析もあるようです。（「裏づけをとる」と行為は見習うべきですね。）

その「ムダ知識」を見ていると、いやいや、なかなか本質を突いているものがあり、知っているのと知らないのでは差がつくようなものもあります。組込みシステム開発に限りませんが、仕事を進める上では「知っている」ことが大事な場面が多々あります。それが、「手数」であるのだと思います。ある問題に対して解決（ソリューション）の選択肢が多いほうが何かと都合がよく、また、様々な条件、制約にも耐えられる解を提示できるのだと思います。

今回の分科会でどれほどの「ムダ知識」が披露されるかはわかりませんが、「酔狂」と言わずにお付き合いいただければと思います。

参考 URL :

@IT : Insider's Computer Dictionary [イーサネット] :

<http://www.atmarkit.co.jp/icd/root/98/5787298.html>

Yasuko のインターネット教室 : <http://direct.hitachi.co.jp/yomimono/it/yasko/school/home.htm>

情報用語の泉 :

http://www-6.ibm.com/jp/provision/no41/pdf/41_sColumn.pdf